

教室通信

学科長就任にあたって

電気電子工学科長 小野寺 秀 俊
onodera@i.kyoto-u.ac.jp

今年度より、電気電子工学科長を務めることになりましたので、ご挨拶をかねて教室の現状につきご説明申し上げます。

ご存じのように、平成 18 年度より学科長公選制が導入されました。初代の公選制学科長として佐藤亨先生が選出され、学科の新しい体制づくりにご尽力頂きました。その路線は北野正雄前学科長に引き継がれ、目に見える形で成果が現れつつあります。今年度以降も、教室内外の皆様のご協力を頂きながら、これまでの取り組みを継続して進めていきたいと考えております。

これまで学科として注力してきた取り組みは、大きく二点ございます。一点目はカリキュラムの見直しです。以前は、卒業に必要な専門科目数の約二倍の講義が学部科目として開講されておりました。電気電子工学の分野の広がりや反映したものではありませんでしたが、多数の科目を登録し取れるものだけ取るという傾向も見受けられました。そのため、電気電子工学分野に共通のコアとなる基本的項目を精選し、3 回生までの講義科目はそれらをカバーするものに限定して科目数を減らしました。専門性の高い内容や各研究分野で必要な基礎知識は、4 回生科目で習得することとしました。平成 21 年度の新入生からこの新カリキュラムでの授業が実施されています。年次進行に従ってカリキュラムの改訂を進めており、来年度には新カリキュラムが完成する予定です。カリキュラム設計は学部教育における最も重要な検討課題ですので、教務委員会（木本委員長）を中心に、継続して検討を致します。

二点目は、高校生や在学生から見た学科の魅力向上させるための各種企画・広報活動です。このところ、高校生の理科離れ、工学離れ、電気離れという状況が続いています。この原因の一つには、工学や電気電子分野の素晴らしさが高校生に伝わっていないことがあります。例えば携帯電話は電気電子工学技術の粋を尽くした製品ですが、その中身はブラックボックスと化しています。ゼロ円で売られる端末もあります。電気電子工学は、最先端技術の普遍化・汎用化とブラックボックス化があいまって、もはや若者が興味を持つ対象から外れてしまったと思われまます。このような状況を少しでも改善するために、主に高校生を対象とした広報活動に取り組んでいます。全学行事であるオープンキャンパスにも学科として積極的に参加し、今年度は 300 名の見学者を受け入れる計画です。高校への出前講義や研究室見学の受入など、高校との連携も継続して実施いたします。学科を紹介するホームページにも注力しており、受験生用のページを設けるなどコンテンツの充実を図っています。是非一度ご覧下さい。入学後の学生に対する取り組みとしては、夏休み期間中にエレクトロニクスサマーキャンプを実施しています。ブラックボックスではなく、実際に動くロボットや音を出す組込み機器を各自の創意工夫を盛りこんで製作する事により、電気電子工学に対する興味や意欲を引き出す事に成功しています。このようなプログラムや広報活動は、企画・広報委員会（守倉委員長）が中心となって実施しています。

次に、学科への志望者に影響を及ぼすと思われる入学試験の改定についてご紹介いたします。まず、平成 24 年の入試より、工学部内各学科の出題科目や配点が統一されます。今年までの入試では、学科毎に出題科目や配点がまちまちでした。電気電子工学科を含む複数の学科では、通常の配点以外に数学や理科を重視した配点も用意していました。学科側としては、理数系重視のメッセージを受験生に伝えていたつもりでしたが、高校や予備校での評判はよくなかったようです。平成 24 年の入試では学科間の差異がなくなり、単一の配点となります。更に、平成 25 年の入試からは、志望先学科を第 2 希望まで選択できるようになります。シンプルな判定規準で複数学科を志望することができるため、受験生の皆様には京大工学部を志望して頂き易くなったと思います。一方、第 2 希望の学生も入学してくるようになりますので、今まで以上に入学後の教育に注意を払う必要があると考えています。

以上、主に教育や人材育成に向けた学科の取り組みについてご紹介致しました。教室に関係する皆様方には、引き続きより一層のご支援とご教示をお願いいたします。